



今回は、県博企画展「東アジア史の案内人 渡辺三三旧蔵資料」の報告です。

◇ 文化遺産の保全、生涯学習の機会促進は、SDGsに含まれます。



◇ 博物館・生涯学習・SDGs・博学連携

博物館は「資料の収集・保管、展示による教育、調査研究」を一体として行う機関であり、人々が、モノを通じて文化・歴史・自然を考え学ぶ場です。扱う対象も、古文書や考古資料、美術品、自然史・科学史資料など多種多様ですが、いずれも先人が守り伝えてきた貴重な遺産です。

博物館は「社会教育・生涯学習のための施設」。近年では地域の学習拠点として、子どもたちへの体験型学習の機会提供や、ボランティア等の協力を得た博物館活動、地域活性化のための活動など、社会との活発なコミュニケーションに基づく活動が広がっており、「博物館」のイメージをダイナミックに変えています。(文部科学省「博物館 - これからの博物館」2011 を参照)

生涯学習の機会促進 (icon4 target1・7ほか)、文化遺産保全 (icon11 target4) は、SDGs に盛り込まれた目標でもあります。

関高校地域研究部は、岐阜県博物館と連携した活動(博学連携事業)として、渡辺三三旧蔵資料の研究活動を行いました。さらにその成果を、日本考古学協会(於: 明治大学)や歴史学フォーラム(於: 九州国立博物館)の場において発表しました。

現在、岐阜県博物館(9月11日~10月21日)で企画展を開催中、さらに岐阜県図書館(11月13日~25日)でも実施予定です。



企画展準備のようす

◇ 県博企画展「東アジア史の案内人 渡辺三三旧蔵資料の研究」と公開講座

岐阜県輪之内町出身の渡辺三三(さんぞう)は、旧満州で小学校教師や図書館長を務める傍ら、遺跡の踏査や研究を行いました。収集した環状石斧・磨製石斧・銅鏃、愛新覚羅溥儀の家庭教師ジョンストン(映画「ラストエンペラー」に登場)を遺跡案内した時の写真などを、岐阜県博物館本館4階・人文展示室前に展示してあります(9月11日~10月21日)。

関高校地域研究部では、下記の通り、今回の企画展にあわせて公開講座を実施しました。

日 時: 9月29日(土) 14:00 ~ 16:00 場 所: 岐阜県博物館講堂

内 容: 関高生による研究発表

講演「勃興期の清朝 ~ヌルハチと撫順地方~」(寺内威太郎明治大学教授)

寺内教授からは、清朝初代皇帝ヌルハチの活動を軸に、撫順地方を舞台とした勃興期の清朝のお話がありました。清朝初期の歴史を、文献と遺跡の双方から丹念に調査した渡辺三三の業績の偉大さを知ると同時に、植民地統治時代の厳しい現実や歴史学界の動向についても学びました。

当日の会場には、今井涼子先生（考古学者、九州国立博物館）、藪下浩先生（考古学者、関高出身）も駆けつけてくださいました。高屋嘉文先生（県立岐阜商業副校長、岐阜県博物館前学芸部長）からは、「岐阜県出身の人物とその仕事を岐阜の高校生が探究する。そして、時間をさかのぼり、日本から東アジアさらに世界へつながる。小さな展示ですが、とても大きな研究だと思います」とのご講評をいただきました。



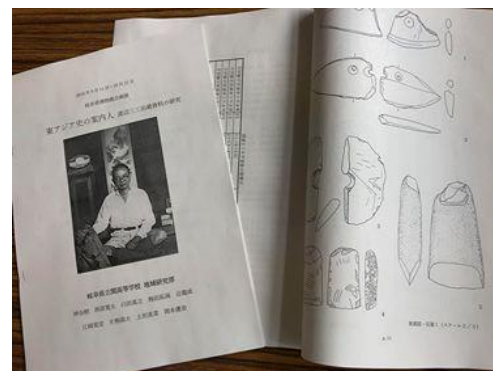
展示の案内板



遺物の展示レイアウト



写真パネルも展示



企画展用パンフレット



展示の様子



関高生の研究発表



司会も関高生が担当しました



寺内威太郎教授による講演



講演後も質疑応答が続きました



渡辺充氏、寺内先生と記念撮影

岐阜県博物館での企画展終了後は、岐阜県図書館でも展示を予定しています（11月13日～25日）。岐阜県図書館地図センターには、陸軍参謀本部陸地測量部作製の十万分の一外邦図の複製品があります。渡辺三三や三上次男も、かつてはこの地図を頼りに踏査を行いました。このほか、地図センターには、戦後、ソ連が作成した中国地図も保管されています。日本陸軍の地図より正確に測量されていますので、こちらのほうが、渡辺や三上が踏査した時代の地形をより正しく伝えていると考えられます。

県図書館の展示では、このような旧満州の古地図を取り入れた展示を計画しています。